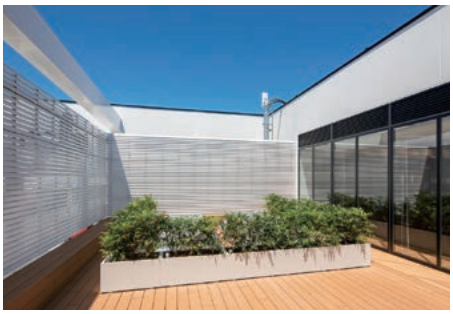
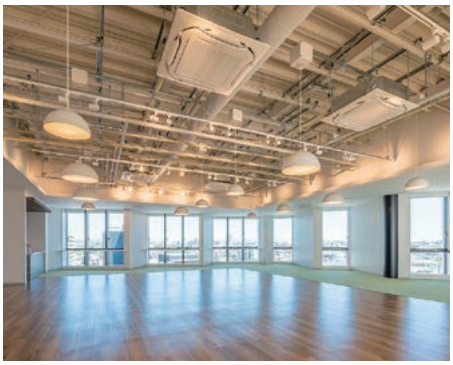
会長賞

明治電機工業株式会社 豊田支店

愛知県知立市

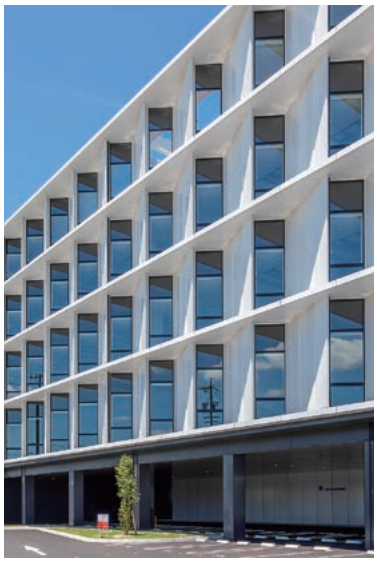
アイシン開発株式会社一級建築士事務所

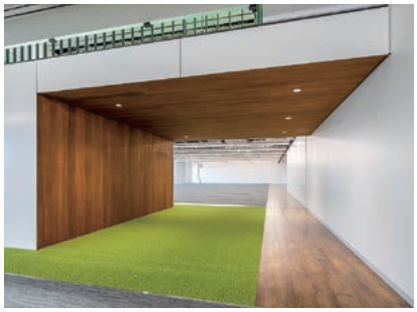




設計意図

豊田支店は、西三河地区を一挙に担当し全社最大の売上をあげる最重要拠点であるが、旧社屋は老朽化と面積不足が目立ち、執務を行う場所として限界を迎えていた。
今後も世界と戦うメーカーを全面からバックアップしていくこと、地球環境の視点からも持続的発展・成長の出来る拠点を目指した計画である。
２フロアに跨る事務所は部署の垣根をなくし積極的な交流を狙い、大階段＋吹抜を設けoneフロア構想＋縦横がつながるワークプレイス空間により多様な働き方を実現した。
また、快適な室内環境の形成と省エネを同時に実現するために、単に空調能力の増強に頼ったり、日射を完全に排除するのではなく、外壁・窓・庇のディテールにより、街と自然と心地よくつながるファサードとした。
行政連携による避難所活用、水害対策でのピロティ採用、自社開発の太陽光発電余剰電力を活用した水素発電機採用など環境に配慮しながら地域と共に歩み続ける。





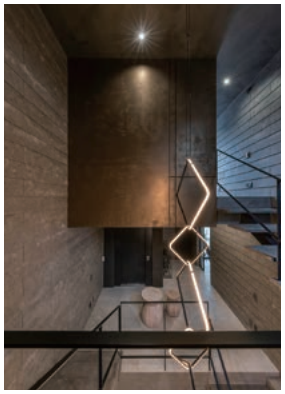
審査委員長講評（名古屋大学名誉教授　谷 口　元）

斜めに衝立を並べたような西面の外壁群と、各階の深い水平庇の組み合わせが印象的な外観であり、パッシブな環境対策を目指しているであろうことが、視覚的に表現されている。加えて屋上の太陽光発電により日常的な電力を賄い、水素製造装置にて余剰電力を貯蔵して、ピーク時間帯に電気を補充でき、加えて災害時に備えるというアクティブな環境対策も十分に施されている。
各階の横のつながりを重視した開放的なオフィスレイアウトと、中央部の大階段による縦のつながりを狙ったデザインも評価される。ただオフィスやホールのレイアウトは従前の並行配置であり、西側ペリーメータ部分の、ギザギザして分節化した小空間が連続している構成を活かしていけば、オフィス環境やワーカーの働き方に変革がもたらされるのではないかと思われる。

優秀賞

ARTBOX

愛知県名古屋市　株式会社CURIOUS design workers一級建築士事務所



設計意図

江戸時代から城下町として続く住宅街での新築計画。敷地内高低差が3.5m、更に隣地まで3.5mの高低差がある北垂れの計画地であり、中腹には土砂災害防止のために防壁が設置されている。採光、眺望共に見込みづらい中で開放的な空間を造りながら、感性を豊かにする暮らしを実現させるため、アートに着目し、飾るアートではなく建築と融合するアートを考え、屋外の防壁に壁画を計画した。古い土留め擁壁や防壁が多い地域の新しい利用方法として計画しながら、アートによる資産価値の向上に努めた。アートを詰め込んだ箱というコンセプトを視覚化させるため、外観は４つの箱型を計画し、室内も同様の計画をしながら光の投影や仕上材など様々な角度からアートを表現した。壁画を人工的景色として計画することで、室内外のボーダーレス化による空間力の向上を図り、建築とアートの融合を実現させた。

審査委員長講評

建築の内外装とも素材感に溢れ重厚で端正なデザインが為された住宅に、様々な種類の芸術作品が多数設えられている。施主筋の嗜好なのか設計者の選定によるかは定かではない。かなりの力作群であることは確かである。「建築と芸術の融合」と謳われているが、融合している部分と、むしろ衝突している部分もあるように見受けられる。溢れんばかりの芸術作品に囲まれた生活か、あるいは端正で簡素な生活を望むかは、施主と同居家族の選択に委ねられていることを再認識できる作品である。

優秀賞

カゴメビル

愛知県名古屋市

株式会社竹中工務店名古屋一級建築士事務所

設計意図

計画地は、かつて徳川家康が行った「清須越し」の後、名古屋城の城下町とした栄「錦三（きんさん）」の愛称で親しまれた「錦三丁目」の入口に位置しています。1962年に株式会社カゴメの本社ビルとして建築されてから、60年に渡り街のランドマークとして認知されてきました。建物は現代の先端技術を利用した木と光のデザインにより地域の建築文化発展とこれからのまちづくりに寄与することを目指しています。低層部には社名の由来であるトマトを収穫する際に使用する「籠（かご）の目」をモチーフとした「KAGOME ARCH」を設置し、上層部には木調色のルーバー、通りから見えるエントランスホールにはインテリアの組子細工を設けています。大津通と本重町通に面した1階キッチンスタジオでは、新製品発表会や親子料理教室、YouTube 撮影、企業紹介など可変性のある運用をしています。上層階の執務室は、昼光制御、吹抜け階段を利用した自然換気による省エネ化や非常時対応の BCP 計画により健康的で居住性・安全性の高い執務環境を整えたことで、CASBEE ウェルネスオフィス、CASBEE 名古屋共に S ランクを取得した環境性能にも優れた建物です。この建物が錦三丁目の入口にあることで、訪れた人の明るい賑わいが街全体に波及していくことを期待しています。

審査委員長講評

名古屋の中心部の、繁華街に出現した木目調のビルである。低層部を支えているかのように表現された「KAGOME ARCH」は、ペリメータ部の意匠であるが、キッチンスタジオに集う一般市民が滞在する低層階を覆い、「籠の目」と銘打たれた格子状天井とも一体化し、独特かつ快適そうな空間を生み出している。そして角地に立つビルとして、かなりのインパクトがある。

上階の執務室やリフレッシュスペースなども、小幅板貼りのフローリングや芝生状のカーペットが敷き詰められ、そこかしこに様々なかたちの家具が置かれており、次世代型のオフィス環境が提供されているようだ。

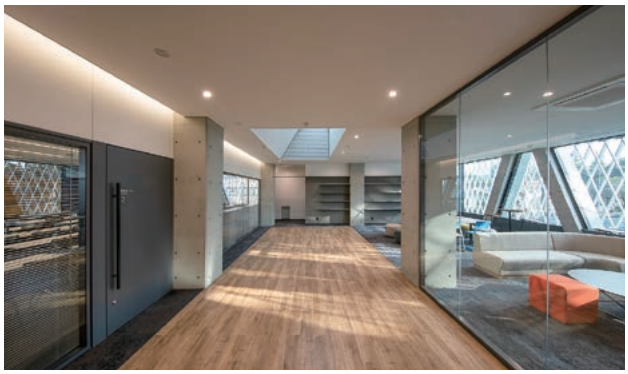
また「健康を増進する」と表現された開放的階段によって、気圧差や温度差を利用したソーラーチムニーの効果も期待される。

優秀賞

三重弁護士会館

三重県津市

FULL POWER STUDIO株式会社一級建築士事務所



設計意図

計画地は、官庁街かつ歴史的景観地区・津城二の丸に位置する。会員数増加と市民サービス多様化に対応する新たな会館が求められた。市民の駆け込み寺として、気軽に立ち寄りやすい開かれた場が求められる一方、プライバシー配慮、そして会員の自己研鑽交流の場としての落ち着いた設えが求められた。そこで、１階のアプローチ部分は開放的な設えとしつつ、１・２階の活動諸室を、クロスメッシュルーバーにより、人影が感じられる程度の半開放なファサードデザインとした。これらの外観イメージは、会員による地域らしさを形にするワークショップで抽出選定された。津城石垣のシルエット「台形ファサード」、三重県５地区の会員の交流の場と、公平性の象徴としての天秤イメージ「５つの山形構造柱」、そして三重の伝統工芸組子「格子スクリーン」。これらを、合理的なＶ型 RC ブレース柱構造や、年間を通し建物への負荷を低減するクロスメッシュルーバー等で実現することで、「地の記憶」と「建築機能」を兼ね備えるエモーショナルな風景を創出した。

審査委員長講評

「地域らしさ」をどう表現するかというワークショップが会員参加型で行われ、台形の外観、Ｖ字型柱、メッシュルーバーなどが考案され実現に至ったことが先ず評価される。ルーバーには多少の遮光効果がありそうであり、その影が室内の日当たりに面白い陰影効果をもたらしている。インテリアは重厚な基調でまとめられているが、光の演出によって和らいだ雰囲気である。メッシュの埃や雨垂れなど心配な部分もあり、外壁全般のメンテナンスを怠らないよう努められることを期待したい。

奨 励 賞

学校法人 青山学園 みやこ幼稚園

愛知県岡崎市

株式会社小林清文建築設計室

設計意図

老朽化に伴う幼稚園の建替計画。田園に囲まれた立地環境で、かつ、乳幼児という体の小さな子どもたちの学びのスタートの場として、施設然とした建築を配置するのではなく、周辺の風景と一体となるような複数の小さな木造園舎で構成された「まちのような幼稚園」を提案した。

まず、複数の園舎を雁行配置させることで、外部には変化のある風景を、内部には様々な広がりのある「ひろば」を園舎の間に創り出す。そして、それらを囲むように園舎前の回廊である「みち」を配置し、園舎をつなぎつつ、敷地全体に回遊性を生み出す。これにより、敷地内に多様な居場所を創りつつ、豊かなシークエンスが展開される園舎を目指した。

構造は、２階建の職員棟のみは鉄骨造とし、園児が利用する棟は木造平屋建とすることで、合理的に園舎大部分の木造化を実現している。

この変化に富んだ環境の中で、「つよく・あかるく・ただしい子」が育っていくことを期待する。

奨 励 賞

M邸

愛知県大府市

鈴木隆介一級建築士事務所

設計意図

築50年壁式 RC 住宅の増改築。施主は住まいに開放性を求めた。周辺はアパートや工場が建ち、前面道路は交通量の多い環境で、施主が求める空間を実現するために、周辺と住空間の緩衝空間となる増築を考えた。既存 RC 棟にリビングと個室をおさめ、既存内では更新が難しい水回りが入る DK 棟を南側、浴室棟を東側に増築し合理的に改修した。RC 棟南面を、駐車場を外して間口いっぱいに木塀で囲み、西側半分を庭、東側を DK とする。ダイニングは天井の高い開放的な場所とし、キッチンのうえに住空間を包み込むようなL型の勾配屋根を架けた。屋根は西端で45°の急勾配で、向かいに建つアパートらの視線を防ぎ、南東に向かうにつれて緩勾配にすることで、ハイサイドライトが大きくとれるようになり、ダイニングへの十分な採光を確保している。閉じることとひらくことが両立する場所を目指した。